

なりたさんきっぽろべつじんしんえいじの いちょう
成田山札幌別院新栄寺のイチョウ

【景観上の特徴】

このイチョウは、北海道開拓期である明治18年（1885年）に仮堂が設置されたのが始まりである成田山札幌別院新栄寺の境内にあり、ご神木として祭られています。

高さがおよそ10m、樹齢150年を超えるイチョウの大木は、丁寧に剪定された枝葉によって、特徴的な樹形がつくりだされています。

また、このイチョウはすすきの地区に位置しており、多くの商業ビルが建ち並ぶ中で、みどりを感じることできる貴重な樹木であり、季節ごとに変化する表情が周辺に彩りを添えています。

このことから、札幌の発展とともに北海道を代表する歓楽街へと成長したすすきの地区にありながら、開拓期から失われることなくそこに生き続ける姿は、地区の歴史を今に伝える資源であるとともに、現在においてはまちに潤いを与える貴重なみどりであることから、このイチョウは札幌市景観計画に示す「地域の個性が際立ち、多彩な輝きを放つ景観づくり」を表しています。



登録年月日	令和3年（2021年）3月31日
所在地	札幌市中央区南7条西3丁目2
連絡・ 問い合わせ先	連絡先名：成田山札幌別院新栄寺 TEL：011-511-0927
URL・資料	http://sapporo-naritasan.jp/
備考	

令和3年（2021年）3月時点

成田山札幌別院新栄寺のイチョウ

位置図

